

FOOD CONTAINER

Publication Number: JP-SHO-63-147411
Publication date: 1988-9-28
Inventor(s): FUMIAKI TANIAI
Applicant(s): GIFU PLASTIC KOGYO KABUSHIKI KAISHA
Application Number: JP UM Application Sho-62-39771
IPC Classification: B65D

Claim:

A food container made of synthetic resin comprising a container body (1), said container body having a circumferential wall (4) a plurality of vertical ribs being formed on an outer surface of the circumferential wall (4), a receiving part (10) formed on an inner surface of a lower portion of the circumferential wall (4), said receiving part (10) adapted to receive another container body having the same shape, characterized in that said vertical ribs respectively have lower ends formed with a certain distance from a lower end of the container body (1), so that said lower ends serve as stopper parts (12) to be received on the receiving part (10).

Brief Description of the Drawings

Fig. 1 is a front view with a partially cross section illustrating a container for instant noodles according too one embodiment of this invention. Fig. 2 is an end view taken along a line A-A in Fig. 1. Fig. 3 is a front view with a partially cross section illustrating a conventional food container.

Food container 1, Synthetic resin film 3, Circumferential wall 4, Receiving parts 10, Ribs 11, Stopper parts 12, Stepped part 13

公開実用 昭和63- 147411

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭63-147411

⑬ Int.Cl.⁴

B 65 D 1/26
1/40
21/02

識別記号

3 0 2

庁内整理番号

C-7214-3E
7214-3E
7214-3E

⑭ 公開 昭和63年(1988)9月28日

審査請求 未請求 (全 頁)

⑮ 考案の名称 食品用容器

⑯ 実 願 昭62-39771

⑰ 出 願 昭62(1987)3月17日

⑱ 考 案 者 谷 合 文 明 岐阜県岐阜市神田町9丁目25番地 岐阜プラスチック工業株式会社内

⑲ 出 願 人 岐阜プラスチック工業株式会社 岐阜県岐阜市神田町9丁目25番地

⑳ 代 理 人 弁理士 恩 田 博 宣

明 細 書

1. 考案の名称

食品用容器

2. 実用新案登録請求の範囲

1 容器本体（1）の側壁（4）の外面に突出形成された上下方向に延びる多数のリブ（11）と、同一形状の他の容器本体を載置するために下端部の側壁内面に形成された載置部（10）とを備えた合成樹脂製の食品用容器において、前記各リブ（11）の下端面を容器本体（1）の下端より所定距離上方の位置に形成して、各下端面を前記載置部（10）に係止される係止部（12）としたことを特徴とする食品用容器。

3. 考案の詳細な説明

考案の目的

（産業上の利用分野）

この考案はインスタント麺類等の食品を収容するための食品用容器に関するものである。

（従来技術）

従来のこの種の容器として、特公昭58-55

069号に示されるものがある。この容器においては、第3図に示すように、容器本体21の補強及び熱湯注入時の断熱効果を得るために、側壁22の外面全体に上下に延びる多数のリブ23が突出形成されているとともに、容器本体21の梱包時、格納時等に同一形状の他の容器本体21を積層状態に載置するために、下端部の側壁22の内面には載置部24が突設されている。

(考案が解決しようとする問題点)

ところが、従来の各リブ23は側壁の下端から上方に延びるように形成されているため、容器本体21の底縁が各リブ23により角状になり、商品販売時の形態において容器本体全体を合成樹脂フィルム25で被包する際に、そのフィルム25が底縁の角状部により破損されやすいという問題点があった。

考案の構成

(問題点を解決するための手段)

この考案は前記問題点を解決するためになされたものであり、側壁外面の各リブの下端面を容器

本体の下端より所定距離上方の位置に形成して、各下端面を側壁内面の載置部に係止される係止部としたことを特徴とする。

(作用)

この解決手段によれば、容器本体を被包する合成樹脂フィルムが各リップの下端縁に対し180度に近い角度を介して接触する。

(実施例)

以下、この考案をインスタント麺類用容器に具体化した一実施例を第1、2図に従って説明する。

この実施例の容器は乾燥麺類を収容するためのカップ状の容器本体1と、その上面開放部を密閉する蓋2とからなり、これらは商品販売時の形態において合成樹脂フィルム3により被包されるようになっている。容器本体1は上方ほど拡張する側壁4と底壁5とを備えるようにポリプロピレン等の合成樹脂材料により比較的肉厚に射出成形されていて、真空成形された薄肉容器とは異なり、調理時に電子レンジを使用しても変形するおそれがない。

側壁 4 は下部勾配部 7、それよりも大径の上部勾配部 8、および上端の側方突出部 9 とから構成されている。下部勾配部 7 の内面下半部は肉厚状に形成され、その段部が同一形状の他の容器本体 1 を載置するための載置部 10 となっている。そして、成形時および梱包運搬時等に複数の容器本体 1 を積層する際に、この載置部 10 と他の容器本体 1 の後記するリブ 11 の下端係止部 12 との係合により、各容器本体 1 の側壁 4 間並びに底壁 5 間に所定の間隔を確保して、双方の密着を防止できるようになっている。

下部勾配部 7 の外面全周には補強および断熱用の多数のリブ 11 が上部勾配部 8 の延長面に達する高さで上下方向に延びるように突出形成されている。各リブ 11 の下端面は容器本体 1 の下端より所定距離上方の位置に形成されていて、これらの下端面が積層時に他の容器本体 1 の前記載置部 10 に対し上方から係止される係止部 12 となっている。なお、各係止部 12 は載置部 10 上に確実に係止されるように水平直線状に形成されてい

る。

したがって、上述した実施例の構成によれば、各係止部 12 により容器本体 1 の下端部に切欠状の段部 13 が構成されるため、第 2 図に示すように、たとえば各リブ 11 の下端外周縁が凹凸状になっていても、そこに対して前記合成樹脂フィルム 3 が 180 度に近い角度を介して接触し、この部分におけるフィルム 3 の破損を防止することができる。また、各リブ 11 が小径の下部勾配部 7 の外面に突設され、かつそれらの突出面が上部勾配部 8 の延長面と一致しているため、容器全体の見栄えがよくなるばかりでなく、リブを上下方向全長にわたって形成する場合と比較して、容器本体 1 の内容積をより拡大することもできる。

なお、この考案は前記実施例の構成のみに限定されるものではなく、その趣旨を逸脱しない範囲で各部の形状や構成を任意に変更したり、コーヒ—またはお茶等の飲料用容器に応用して具体化することも可能である。

考案の効果

以上詳述したように、この考案によれば、容器本体を合成樹脂フィルムで被包する際に、リップの下端縁との接触によるフィルムの破損を防止することができるという優れた効果を奏する。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの考案を具体化した一実施例を示すインスタント麺類用容器の一部破断正面図、第2図は第1図のA-A線端面図、第3図は従来の食品用容器を示す一部破断部分正面図である。

容器本体1、合成樹脂フィルム3、側壁4、載置部10、リップ11、係止部12、段部13。

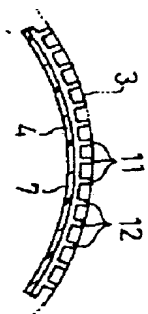
実用新案登録出願人

岐阜プラスチック工業 株式会社

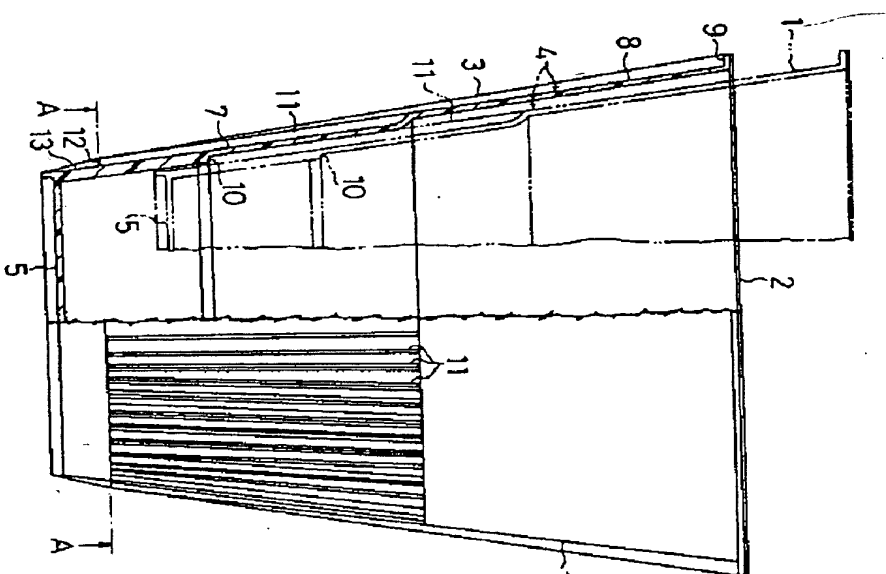
代理人 弁理士 恩 田 博 宣

図面その1
後図面無し

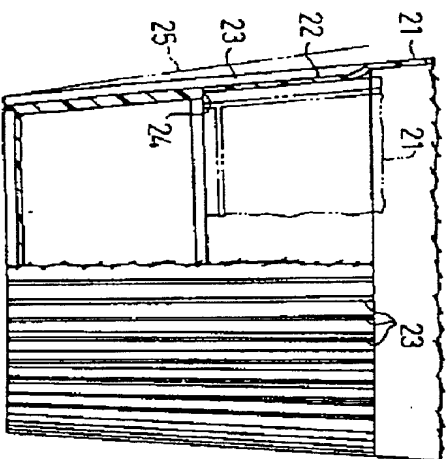
第2図



第1図



第3図



実用新案登録出願人 岐阜プラスチック工業株式会社

代理人 弁理士 恩田 博 宣 114

実開63-147411